

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 9 日現在

機関番号：34101

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23530782

研究課題名(和文) 社会福祉施設のボランティアコーディネーター養成のための教材開発に関する研究

研究課題名(英文) A study of the development of teaching-materials for the volunteer coordinator of the welfare facilities

研究代表者

守本 友美 (MORIMOTO, Tomomi)

皇學館大学・人文社会・教育科学系・教授

研究者番号：70300332

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円、(間接経費) 720,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、福祉施設のボランティアコーディネーターを養成するための教材開発を試みることを目的としている。教材開発にあたっては、コンピテンスという概念を導入し、東海4県の福祉施設へのコンピテンスの重要度をたずねる質問調査を行った。

調査結果より、ボランティアコーディネーターの8つの役割の中の「受け止める」「求める」「高める」の項目に含まれるコンピテンスの重要度が高いことが分かった。この結果に基づいて、教材の構成として「第1章 ボランティアと社会福祉施設」、「第2章 ボランティアを求める」、「第3章 ボランティアを受け止める」、「第4章 ボランティアの意識やスキルを高める」という単元を提示した。

研究成果の概要(英文)：This research aims at trying the development of teaching-materials for training the volunteer coordinator of welfare facilities currently asked for the capability of such new coordination.

In the development of teaching-materials, the concept of competence which includes not only capability but a sense of values and a spiritual base are included was introduced, and descriptive study which asks the importance of competence to the welfare facilities of Tokai 4 prefectures was performed.

The result of investigation that the importance of the competence of the items of "accept", "ask for", and "raise" in a volunteer coordinator's role was higher was obtained. Based on this result, as the composition of teaching materials, "Chapter 1 Volunteer and Social Welfare Facilities", "Chapter 2 Ask for Volunteer", "Chapter 3 Accept Volunteer", "Chapter 4 Raise Volunteer's Consciousness and Skill" was shown.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会福祉学

キーワード：ボランティア・福祉NPO ボランティアコーディネーター

### 1. 研究開始当初の背景

日本においてボランティアコーディネーターの必要性が指摘され始めたのは、1970年代中ごろからである。当時、ボランティアの主な活動場所は福祉施設であった。その当時は施設職員から十分な理解が得られないことも多く、またボランティア自身も研修やトレーニングの機会がなかったことから有効な活動に至らない場合も多かった。そこで、施設でのボランティアコーディネーターの配置が求められるようになった。

1976年、大阪ボランティア協会において日本で初めての「ボランティア養成講座」が開催され、1979年には同協会より『ボランティアコーディネーターの手引き - 専門ワーカーの役割 -』が出版されている。これは施設ボランティアコーディネーターの機能と役割について解説したものであり、最初の教材と考えられる。1980年代に入ると、地域福祉や在宅福祉の概念が注目され、ボランティア活動も施設活動から地域活動へと移行し始めた。さらに、1985年の厚生省(当時)によるボランティア事業により、各地の社会福祉協議会にボランティアセンターが急速に設置され、センター型(仲介型)のボランティアコーディネーターの課題がクローズアップされた。ここで展開されたのが仲介型のボランティアコーディネーター論で、ボランティアコーディネーターの規範、役割、機能などを体系的にまとめたものであった。

1990年以降はボランティア活動の分野やスタイルが多様化し、福祉施設のようなボランティア受け入れ組織自身が多様なボランティアに対応するためにボランティアコーディネーターの能力向上を望むようになった。ここで福祉施設におけるボランティアコーディネーターのあり方が再び議論されるようになり、新たな教材も開発された。

2002年4月からの「総合的な学習の時間」の導入以降、福祉学習・ボランティア活動に対する市民の期待・関心の拡がりから、福祉施設でのボランティア活動のニーズが改めて注目されるようになった。このニーズに対応するため、福祉施設での受け入れ体制の整備が重要視されるようになり、全国社会福祉協議会による『福祉・介護関連施設におけるボランティア受け入れマニュアル』(2002)が開発された。また、神奈川県社会福祉協議会では独自の「社会福祉施設のボランティアコーディネーション指針」を作成している。

### 2. 研究の目的

本研究は、ボランティアコーディネーター養成のためのプログラムに活用できる教材を開発することを目的とする。その際にコンピテンスの概念を導入することも目指している。これまでの教材は福祉施設にボランティアを受け入れるためのマニュアルとしての要素が強く、現在の福祉施設が求めている地域との関係構築のための理念や働きかけの実際については触れていない。コンピテンスは能力のみを示すものではなく、価値観や精神的基盤も含まれることから、養成のための教材にコンピテンスの概念を導入することによって、福祉施設でのボランティアコーディネーションの意義を明確にするとともに、ボランティアコーディネーターに必要な知識・技術・価値も明確になり、その専門性向上に寄与することができると思う。

### 3. 研究の方法

ボランティアコーディネーターのコンピテンスを明らかにするためのヒヤリング調査：ボランティアコーディネーターのコンピテンスを抽出するために、ボランティアを受け入れている施設の担当者にヒヤリングを行う。その際に基準となるものとして、

「みえ VCO 研究会」で開発したコンピテンス・アセスメントシートの項目を活用する。

ヒヤリングの対象者は、申請者が講師を務めている三重県社会福祉協議会主催のボランティアコーディネーター養成研修修了者のなかから依頼する。

ヒヤリング調査で出されたコンピテンスの整理：検討されたコンピテンスをカテゴリー化する。カテゴリーの設定にあたっては、日本ボランティアコーディネーター協会が提唱しているボランティアコーディネーターの 8 つの役割を参考に、受付、アセスメント、活動開始への支援、フォローアップ、評価のボランティア受け入れ過程を軸とする。また、その過程に分類できない（いずれの過程においても必要とされる）コンピテンスについては、別途カテゴリー化を行う。

コンピテンスの重要度を明確にするための調査：精査されたコンピテンスの重要度を明確にして、福祉施設のボランティアコーディネーションにおいて求められるコンピテンスを精査するための、東海地方 4 県（三重県、愛知県、静岡県、岐阜県）の社会福祉施設（介護老人福祉施設、障害者自立支援施設、児童養護施設）を対象とした郵送による質問紙調査。

調査時期：2013 年 2 月 1 日～2013 年 3 月 1 日

回収件数：298 件 回収率：32.9%

コンピテンスの内容については、「特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会」が提示しているボランティアコーディネーターの 8 つの役割（受け止める・求める・集める・つなぐ・高める・創り出す・まとめる・発信する）を基軸として、その 8 つの役割を果たすためにはどのような能力が必要になるのかという視点でコンピテンスを列挙した。

コンピテンスのそれぞれについての重要

度を、「1：ほとんど重要ではない」「2：あまり重要ではない」「3：重要である」「4：非常に重要である」の 4 段階尺度評定法で図ることを試みた。

#### 統計の集計と分析

コンピテンスの重要度を得点化するために、「非常に重要である」に 4 点、以下 1 点ずつ減じていき「まったく重要ではない」に 1 点を付与し、重要度が高いほど高得点になるように算出する。そして、その項目別平均得点について比較検証を行う。

#### 4. 研究成果

##### (1) 調査研究結果

##### < 基本的な設問 >

ボランティアを受け入れている施設は全体の 98.0%

回答を得られた施設の種別の割合は、高齢者福祉施設 56.4%、障害者支援施設 33.2%、児童福祉施設 10.4%

##### < コンピテンスの重要度 >

コンピテンスの重要度は、VCO の 8 つの役割をもとに考えた項目「受け止める」「求める」「高める」の順に高かった。

「受け止める」のコンピテンスの重要度が高いということは、活動希望者やボランティア活動に関する相談を受け止めるという、援助者としての能力が求められているということである。

近年の特徴として、ボランティア活動希望者に「自己実現動機」が多く見られるようになっている。こうした“いきがい動機”や“自分発見動機”のなかには、精神的な“癒し”をボランティア活動に求めるケースも少なくない。このような動機は否定されるべきものではないと考えるが、特に福祉施設においては利用者の生活を守り、その質を向上させるという支援が第一義的になることを、ボランティアコーディネーターは活動希望者やボランティアに伝える必要がある。活動希望者やボランティアの思

いと利用者や施設のニーズとのギャップは、相互理解を深める妨げになる。ボランティアが自分の思いだけで動くことで利用者や施設に不快な感情を抱かせることも考えられる。それが「ボランティアなんて・・・」という誤解を生じさせてしまう。一方、活動希望者やボランティアの思いを聴かずに活動メニューに当てはめることで終わってしまうと、施設のボランティア観を疑われることにつながる。ボランティアコーディネーターは活動希望者やボランティア、利用者や施設がともに心地よい関係を形成できるような調整機能が求められており、その基礎となるのが「受け止める」に係るコンピテンスであると考えられる。

次に、重要度が高いのは「求める」に係るコンピテンスである。個々のニーズを受け止めたあと、それに応えていくためには、個々人に応じた活動の場や必要な情報などを探すということが必要になる。「求める」の項目は大きく「活動の場を求める」と「活動参加者を求める」の2つに分けることができるが、本調査では「活動参加者を求める」の項目に係るコンピテンスの重要度が高いという結果が得られた。施設にとってはそれぞれの援助方針に沿った事業に対して共感性が高く、条件にも合うようなボランティアを求めるとのことである。それは、すでに活動中のボランティアやボランティアグループに新たな活動の場や機会を提供することとともに、多くの施設が目指している地域との関係を結ぶための住民への呼びかけを工夫することも含まれている。

3番目に重要度が高い項目は「高める」である。福祉施設のボランティアコーディネーションにおける「高める」の内容としては、活動前に実施するオリエンテーション、活動するにあたって必要な研修などの支援を行うことが考えられる。また、活動中および活動終了後にボランティア自身の

課題別の学習会を開催したり、活動について振り返る会を設けることなども含まれる。

特に「活動前のボランティアに対してオリエンテーションを実施する」というコンピテンスの重要度は3.2を示しており、全体の中でも上位にある。活動前のボランティアに対してオリエンテーションを適切に実施するコンピテンスは、それぞれの福祉施設の理念や援助方針、利用者の状況などを活動希望者に理解してもらうためにも重要である。「活動後のボランティアに対して振り返りの場を提供する」というコンピテンスの重要度も3.0を示している。ボランティアは振り返りの場を通して各自の気づきや学びを確かなものにしていくことができる。このような場に出された疑問や提案によって、次回の活動内容が改善されたり、また新たなボランティアプログラムが創られていくきっかけになる。さらに、活動を通して感じた問題意識を共有することによって、制度や環境改善への活動が生み出されていくこともある。

## (2) 教材開発への試み

コンピテンスを基盤とした教育の概念を踏まえ、テキスト開発のための目的と着眼点を整理し、単元の構成を試みた。

目的：福祉施設のボランティアコーディネーターに求められるコンピテンスの向上  
着眼点としてのコンピテンス：何らかの業務を高度に実践する力は専門能力と考えることができる。テキストの開発にあたっては求めるべき能力としてコンピテンスに着目した。

方法：コンピテンスの重要度3点台を考慮して整理した。

教材の単元の構築にあたっては、大項目は8つの役割のなかで重要度3点台の項目が多かった上位3つの役割をあげ、「章」として構成した。なお、第1章は社会福祉施設のボランティアコーディネーションを

理解するために必要な基礎知識として単元を構成した。また、中項目は3つの役割を果たすためのコンピテンスを習得し向上させるために学ぶべき内容を「節」として構成した。さらに、コンピテンスの向上に不可欠なキーワードを提示した。

〔教材 目次〕

## 第1章 ボランティアと社会福祉施設

### 第1節 施設ボランティアの歴史

(キーワード:ホスピタリズム、ノーマライゼーション、施設の社会化、住民運動)

### 第2節 現代の福祉施設とボランティア

(キーワード:地域福祉、福祉コミュニティ、地域社会関係、福祉教育、リスクマネジメント)

### 第3節 ボランティアの本質と揺らぎ

(キーワード:ボランタリズム、NPO、新しい公共、災害ボランティア)

## 第2章 ボランティアを求める

### 第1節 ボランティアの受け入れのための準備

(キーワード:援助方針、受け入れマニュアル、年間計画、ボランティアプログラム)

### 第2節 ボランティアの募集

(キーワード:連携、情報発信、広報)

### 第3節 ボランティアグループの組織化

(キーワード:グループダイナミクス、グループワーク)

## 第3章 ボランティアを受け止める

### 第1節 活動希望者の動機

(キーワード:利他主義、自己実現、多様化)

### 第2節 活動希望者との面談

(キーワード:面接技法、ニーズ、アセスメント)

### 第3節 気になった活動希望者に対して

(キーワード:フォローアップ、連絡調整、情報提供)

## 第4章 ボランティアの意識やスキルを高める

### 第1節 オリエンテーション

(キーワード:活動のしおり、誓約書、合意書、文書化)

### 第2節 スーパービジョン

(キーワード:援助関係、振り返り、気づき、課題解決)

### 第3節 学習・啓発の場の提供

(キーワード:関係性、協働、ソーシャル・インクルージョン)

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)(投稿中)

守本友美、コンピテンスを基盤とした福祉施設のボランティアコーディネーターのための研修テキスト開発の試み、日本福祉教育・ボランティア学習学会研究紀要、Vol.24、2014、査読有

〔学会発表〕(計 1 件)

守本友美、社会福祉施設のボランティアコーディネーター養成のための教材開発に関する研究、日本地域福祉学会、2014年6月15日

〔図書〕(計 2 件)

守本友美 他、大学教育出版、なぎさのコミュニティを拓く、2013、206

守本友美 他、ミネルヴァ書房、ボランティアの今を考える、2013、178

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

守本 友美 (MORIMOTO, Tomomi)  
皇學館大学 現代日本社会学部・教授  
研究者番号：70300332

(2) 研究分担者

なし  
( )

研究者番号：

(3) 連携研究者

なし  
( )

研究者番号：